



しじき



CONTENTS

- 1 平成25年 賀詞交歓会
- 4 平成24年 暦年出荷実績

平成25年 賀詞交歓会



理事長あいさつ 工業会活動計画について

ドラム缶工業会の賀詞交歓会が1月10日(木)、鉄鋼会館で開かれました。同工業会を代表して、賀川彰理事長は本年の課題・活動について下記のように述べました。



明けましておめでとうございます。本日は、経済産業省製造産業局の山下鉄鋼課長様、日本ドラム缶更生工業会の山本会長様をはじめ多くのご来賓の方々にご出席を賜りました。お忙しいなか、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

新年を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は内需不振、デフレ、円高など長年の重荷に加え、世界経済不振による輸出減少に悩まされていましたが、さらに予想外の領土紛争が追い討ちをかけ、一時は暗い気持ちになってしまいました。しかし、12月の衆議院選挙でデフレ脱却、円高是正と経済再生を掲げた自民党が大勝するや、ムードは一転し、円高が修正され、株価も上昇いたしました。久しぶりに明るい気持ちで正月を迎えることができました。

デフレ脱却、経済再生といっても解決すべき課題は数多くあり、そう簡単ではないでしょう。これから打ち出す政策、緊急経済対策、税制改正、補正予算、外交政策などは世界経済の動向にかかっています。しかし、前政権と違い、課題に正面から果敢に取り組もうという姿勢はおおいに評価できると思います。我々ドラム缶産業としては、内需拡大と輸出の回復を期待しているところです。



このように企業や国民の国に対する期待が大きくなっています。それはそれで結構なことですが、思い出すのは1961年のケネディの大統領就任演説です。「国があなたに何をしてくれるかではなく、あなたが国のために何ができるか考えて欲しい」

我々ドラム缶産業としては、産業用容器の供給責任の重さをしっかり認識して、海外と比べ割高といわれるドラム缶の価格競争力を高め、少しでも経済再生のお役に立つよう努めていくこと、あるいは、除染廃棄物の安全な保管容器が求められています。早急に目的に合ったドラム缶を開発し供給するなど、自らやるべきことは多くあると考えています。

さて、工業会は、昨年は除染廃棄物用ドラム缶の技術検討、会員各社の相互技術交流、異業種の技術調査などに力を注ぎました。

今年はこれらの活動に加えて、3年に一度のアジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会（AOSD）の国際会議を11月にタイで開催します。会議のテーマはドラム缶製造に関するあらゆる分野の最新技術です。この会議にはアジアのほとんどのドラム缶メーカーと、欧米のドラム缶工業会の代表など多くのメンバーが参加します。会議の準備、運営は我々ドラム缶工業会が中心になって行います。実り多い会議にして、アジアの同業各社との交流を深めることは我々の責任であります。会員、関係者の皆様のご尽力とご協力をよろしくお願いいたします。

また、今年は再生缶工業会の世界会議も開催されるということです。新ドラムと再生ドラムは車の両輪の関係です。この会議が成功することを心から祈っております。

世の中が明るさを取り戻しつつあるなかで、我々ドラム缶工業会も元気で明るく活動を続けていきましょう。

最後にお集まりの皆様のご健勝と、ドラム缶産業の発展を祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

理事長の挨拶に続き、経済産業省製造産業局鉄鋼課の山下隆一課長より、概要下記の祝辞をいただきました。

まずは先ほど理事長がおっしゃいましたが、大きな変化として昨年末に政権が交代をいたしました。新安倍政権は経済の再生と復興、この2つをとにかく迅速にやるのだということに旗印にして動いているところでございます。実際に経済財政諮問会議、これがマクロを動かしている。そして産業再生という意味で産業力競争会議、こちらがミクロを動かしている。この2つの組織を柱にして、車の両輪として経済を復活させていくということに取り組んでいく状況でございます。

矢継ぎ早にいろいろな対策がどんどん出てまいります。我々も政府の一員として、経済産業省でございまして、経済財政諮問会議と産業力競争会議を支える、我々が支えていくということで頑張っていくと思っております。

先ほど理事長からもありましたが、今、株価は上がり、為替は超円高が是正されてきている状況にございます。とはいっても実際経済がそれほど大きく変化したかという点、まだ変化している状況にはございません。鉄鋼をはじめとして日本の特に製造業は、極めて厳しい国際競争にさらさ





経済産業省 製造産業局 鉄鋼課 山下隆一課長



ドラム缶工業会 野上正道副理事長 (ジャパンペール社長)



ドラム缶工業会 中島廣久副理事長 (JFEコンテナ社長)

れているところでございます。グローバルでの勝負になっているなかで企業規模の観点から、いろいろ競争力を支える諸様相、日本では六重苦の問題がございますが、この諸様相の面から見ても、グローバルな競争をこれからどう考えていくかというのが非常に大きなカギになっております。

まだまだ経済再生は始まったばかりでございます。今の政権は産業界の皆様と我々役人と政治家、これが一緒になり、これからこの国を変えていくというメッセージを強く出していくところでございますので、我々がなかなかいたらない、知恵が足りない面もございますが、皆様からどんどん意見をいただき、あるいは教えていただきながら経済再生に向かって邁進していこうと思っております。

続いて、ドラム缶工業会の野上正道副理事長は概要下記のように挨拶いたしました。

リーマンショック時の非常に厳しい数字と匹敵するような数字となってしまいました。

思い起こしますと平成2年のころに、年間のペール缶の国内需要が2,700万本以上ございましたけれども、それ以降どんどん右肩下がりに下がっておりまして、この5年間はなかなか年間2,000万本という水準を越すことができておりません。そういったなかで非常に厳しい年でしたが、先ほどからもお話が出ていますように、新しい政権が誕生してから年明けは特にそうですけれども為替や株価

に一筋の明かりが見えてきたような気がしております。我々といたしましては、この小さな灯火が大きな松明となつてさらには日本全国を明るく照らしだすような、そういった年になって欲しいと心から願っているわけでございます。

私どもペール委員会は、昨年のテーマにオートメーション技術の研究を掲げて研究してまいりました。年々厳しくなりますお客様のいろいろな品質へのご要求はもとより、一方におきまして、やはり生産性を向上させていかななくてはならないのです。自動車メーカーを中心に工場見学もさせていただきまして、それぞれのペール部門での参考にさせていただいております。昨年の年頭にも申し上げましたが、ペール缶の巻締め技術の確立というテーマも一朝一夕にはいきませんが、昨年に引き続きまして研究をさせていただいております。そういった活動を通じまして、ささやかではございますが産業や容器製造の一角を担い、我々としても日本経済のために微力ながらお役に立てればと思っております。

最後にドラム缶工業会の中島廣久副理事長が概要下記のように挨拶いたしました。

私はもともと楽観主義でございますので、何とかなるのではないかと考えております。工業会一丸となって今年も頑張っていきたいと思っておりますので、ぜひ関係のある皆様方全員でよろしくお願ひしたいと思っております。

本日はご出席いただきありがとうございました。

平成24年 暦年出荷実績

平成24年暦年出荷実績は、下の表に示す通りです。

15.1%減の626千本となりました。

200L缶は、前年比5.9%減の13,206千本と減少しました。
ペール缶も前年比2.9%減の19,174千本、中小型缶も前年比

垂鉛鉄板缶の200L缶は前年を上回りましたが、他は前年を下回りました。

(単位：千本)

缶種		用途	石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	前年比 (%)
普通鋼薄板	200L缶 ()は前年比 下段は構成比		1,526 (85.9) 11.6%	10,625 (94.9) 80.4%	688 (97.4) 5.2%	194 (102.5) 1.5%	173 (98.4) 1.3%	13,206	94.1
	ペール ()は前年比 下段は構成比		10,264 (98.6) 53.5%	7,715 (95.4) 40.2%	706 (105.2) 3.7%	0 - -	489 (84.8) 2.6%	19,174	97.1
	100L缶		0	108	6	0	1	115	83.4
	50L缶		0	86	0	0	6	92	80.3
	アス缶型		0	7	0	0	0	7	87.5
	その他容量缶		0	404	0	0	8	412	86.5
その他	200L缶	垂鉛鉄板缶	0	49	0	3	8	60	106.4
		ステンレス缶	0	27	0	0	0	27	94.5
		小計	0	76	0	3	8	87	102.4
	中小型缶	垂鉛鉄板缶	0	87	0	0	225	312	93.8
		ステンレス缶	0	8	0	0	0	8	85.6
		小計	0	95	0	0	225	320	93.6
合計			11,790	19,116	1,400	197	910	33,413	-
*前年比 (%)			89.3	94.6	98.1	102.9	91.3	94.0	-
*構成比 (%)			15.1	76.7	5.1	1.4	1.7	100.0	-

*前年比および*構成比は、トン数による。総本数は、33,413,342本。表上の数値は四捨五入による差異がある。

会員

《正会員》

- 斎藤ドラム罐工業 (株)
- JFEコンテナ (株)
- (株) ジャパンペール
- 新邦工業 (株)
- ダイカン (株)
- (株) 東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム (株)

- (株) 長尾製缶所
- 日鉄住金ドラム (株)
- (株) 前田製作所
- (株) 山本工作所

《準会員》

- 森島金属工業 (株)

《賛助会員》

- エノモト工業 (株)
- (株) 大和鐵工所
- 三喜プレス工業 (株)
- (株) 城内製作所
- 東邦工板 (株)
- (株) 水上工作所

ドラム缶工業会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10
(鉄鋼会館6階)
TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969
e-mail : drum.pail@jsda.gr.jp

URL : <http://www.jsda.gr.jp/>

ひびきNo.66 (平成25年2月20日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 事務局長 米倉 隆行

本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。